

区の評価及び意見について

【浪速区】 (受託者:株式会社 地域環境計画研究所)

1 地域活動協議会の状況についての分析(年度当初)

項目	受託者の分析に対する評価及び意見
「(1)「Ⅰ 地域課題への取組」について の分析 (2)「Ⅱ つながりの拡充」について の分析 (3)「Ⅲ 組織運営」について の分析 (4)「Ⅳ 区独自取組」について の分析 (区が「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」において設定したもの)」	地活協の意義、地域課題の共有など、地域により理解度・成熟度も大きく異なっている状況を把握・分析できており、それを踏まえた支援策を検討できている。 分析通りであり、地域活動にかかわりの薄い層への対策が必要である。 地活協の認知度がまだまだ不十分であることから、分析内容のような状況になっている。急激な浸透は難しく継続的な支援が求められる。 マンションが多く、地域とつながりを持たない住民が多いという、区の特性を踏まえた事業を計画できている。

2 事業の実施内容(支援策(取組)の内容)

項目	提案内容に対する評価及び意見
「(1)「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の提案内容 (2)「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の提案内容 (3)「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の提案内容 (4)「Ⅳ 区独自取組」にかかる支援の提案内容 (区が「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)」において設定したもの)」	・「成熟度に応じた自律支援」と「地活協の裾野広げる支援」を両輪させることは重要である。 ・「なにわ区ラボ」により他地域の情報を得ることなどで、新たな活動のきっかけや、意識の変革につながる事が期待できる。 ・地活協の意義・取組みを広く浸透させることで、地域課題の共有へとつながるものである。 ・地域活動への関わり度合いや習熟度に応じた支援策は、評価できる。 ・階層によっては、即座に効果が表れない場合もあるが、継続して実施されたい。 ・適正な組織運営、会計事務の適正な執行など、ルールづくり・遵守は実現されている。 ・広報についても、紙媒体に加え、ブログも充実するなど、着実に進捗している。 ・これらの成果は、画一的な支援ではなく、地域ごとの成熟度を見極め、柔軟な支援によるものであり、評価できる。 ・地活協のパンフレットや行政支援メニュー(チラシ)などを活用し、マンションや子育て世代へのアプローチを継続されたい。

3 事業の実施体制等

項目	提案内容に対する評価及び意見
(1)自由提案による地域支援の提案内容 (企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)	・アドバイザーと支援員が、それぞれの経験を生かし、各地活協や構成団体などと連携を取れている。
(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる提案内容	・支援員の担当地域変えや、新しく支援員として配置された者もいたが、副担当者制のフォローや、これまでの経験・情報の共有化を図ることで、円滑な支援が行われており、地域からも信頼されている。

(2-2)フォロー (バックアップ)体制等にかかる提案内容	・「支援会議」、「全体情報共有会」、「定例情報共有会」、それぞれの会議の目的を明確にすることで、有効な場となっている。
(3)区のマネジメントに対応した取組にかかる提案内容	・地域活動に関わりの薄いマンション住民へのアプローチを継続して実施されたい。

4 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)(5つ以内)

支援策(取組)名称	支援策(取組)に対する評価及び意見
井戸端会議の試行	・役員だけでなく、幅広い参加者により行え、自由な意見交換ができ、好評であった。 ・自由意見であるが、中には地域課題の共有となる話題も出ていた。 ・継続して実施することで、新たな担い手の拡充につながることも期待できる。
なにわ区ラボの開催	・「会計」では、改めてルールの確認や、新しい会計担当者へのレクチャーなどで有効である。又、実施された内容を、後日、希望者へ個別に説明するなどし、多くの人が共有できている。 ・「情報発信」では、地域間の情報共有が図ることができ、新たな活動のきっかけや、意識の変革につながることを期待できる。
中間報告会の充実	・前期事業の振り返り、補助金の再配分や変更申請のほか、翌年度事業計画へもつながるものであるものであり、重要な場である。 ・活発な意見交換となるよう支援されたい。
分譲マンション居住者へのアプローチ	・マンション居住者は、地域との関わりや地域活動への関心も薄く、行政情報も十分に行き届いているか不透明であり、関心の高いテーマから情報発信することが大切である。 ・その結果、マンション単位での取組みや、地域行事への参加へのつながりが期待できるものであり、継続して実施されたい。
広報なにわ「教えて！地活協！」の連載	・地活協役員や実施主体のメンバーを除くと、地活協の認知度は高いといえず、改めて基礎知識から広報・啓発が必要である。 ・継続的に連載することで、区民に見ていただく機会も増え、内容も好評である。

5 現時点での支援の実施状況

項目	評価及び意見
(1)現時点での支援の実施状況 (目標の進捗状況)	・地域の成熟度や特性ごとに、地域住民の地域活動に対する階層ごとに、それらに応じた支援策は効果的である。 ・なにわ区ラボでは、他地域の取組を知ることができ、それを参考にした新たな取組みや、意識変革につながることを期待でき、有効な場となっている。又、新たに行った井戸端会議でも想像以上の意見交換が図れ、継続実施が望まれる。 ・ブログや情報誌発行の支援、広報なにわへの連載、まちづくりセンターホームページでの情報発信、マンション住民へのアプローチなど、地道な支援策も多いが、柔軟かつ丁寧な支援と評価できる。
(2)上記を受けた、年度後半の支援についての考え	・前半の支援策については、即座に効果が表れない場合もあると思われるが、非常に重要なメニューであると考えており、継続して実施されたい。 ・受託者記載のとおり、今年度後半、来年度事業へ向けて、より活発で自由な意見交換が、事業の充実、参加者の増加、新たな担い手の発掘へとつながる事が期待されるので、そのような場の設定や運営の支援を積極的に実施されたい。 ・会計事務や報告書作成は、これまで特定の担当者に負担が偏る傾向があり、年度末に向け作業が膨大となる。なにわ区ラボの「会計のイロハ」などを活用し、事業担当者のスキルアップや、携われる人材の増加を目指していただきたい。